

ときめき人

Tokimeki bito



NYの舞台で躍動 ダブルダッチ 国際大会優勝

米山町・猪込出身

秋山 裕太さん

あきやま ゆうた
1997年生まれ 血液型/O型

Profile

岩手県立大学4年生。米山中、佐沼高では野球部に所属。大学入学後に始めたダブルダッチでは、運動神経を生かし、派手な演技を披露する「アクロバット」を担当。好きな食べ物はイチゴ。

(右)世界一のトロフィーを手にした「刹那」のメンバー(一番右が秋山さん)



2本のロープで縄跳びをしながらパフォーマンスするダブルダッチの国際大会「NDDLホリデークラシック」は12月8日、アメリカ合衆国ニューヨーク州にあるアポロ・シアターで開かれ、本市出身の秋山さんが所属するチーム「刹那」が優勝し、世界に輝いた。

「刹那」は岩手県立大学の男女6人で構成されるダブルダッチのチームで、サークル内の同級生で結成した。3年生で全国8位と好成績を取めたが、国際大会への出場条件は3位以内。「全国8位はうれしかったが、満足はできなかった」と、世界の舞台へ行くためには何をすべきかチーム内で話し合った。大学の講義や実習、アルバイトなどで多忙を極める中、時間を縫って練習時間を捻出。ちょっ

としたボタンの掛け違いからメンバー同士でぶつかり合うこともあったが、仲の良さが「刹那」の持ち味。何度も話し合いを重ね、技を磨きあげた。

4年生で迎えた全国大会では、練習が実を結び3位。サークル史上初の国際大会出場を決めた。勢いそのままに挑んだ世界の舞台。地元アメリカのチームに声援が集まり、アウェーの空気に包まれた中の一番だったが、「個性を出し切って楽しもう」と声を掛け合った。演技を見事ノーマスで終え、世界の頂へと上り詰めた。

「世界一はスタート。大学を卒業し、仙台に就職するので、これからは宮城からダブルダッチを盛り上げていきたい」。活躍の場を移し、これからもダブルダッチの躍進を支えていく。

編集後記

▼成人を迎えた皆さん、おめでとうございます。今号は、成人式を取材しました。過去の「ぼくとわたしの夢」を基にインタビューさせてもらった横山さんと文さん。二人とも中学生の時の夢を追い、大学生になりました。二人の夢がかなうよう応援しています。(小野寺)

▼ときめき人の秋山さんの取材では、言葉では表現できないほどの苦悩があったのだと感じました。楽しく始めたことでも、投げ出したくなる時が誰にでもあります。そんな時は初心に返り、自分の気持ちと向き合うことで、努力し続けられるということを学ばせてもらいました。(三浦)

▼小学生未来新聞コンクールを取材。どのチームにも共通していたのは、しっかりと取材しているということ。関係者から話を聞き、現状や課題を整理した上で柔軟な発想で未来を描いていました。発表も工夫し、完成までの努力を感じ、とても感銘を受けました。(高橋)



登米市公式ホームページ
<https://www.city.tomei.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)
<https://mail.cous.jp/tomeicity/>